

看護部 通信

新年を迎えて ～with コロナ これからの看護部の展望～

看護部長 三笠 照美



2022年 新年

2020年に発生した未曾有のコロナ感染拡大により、全国民の今までの生活が一変しました。「三密回避」が合言葉となり、看護の現場ではなくてはならないコミュニケーションの在り方も、非接触型となり2年が経過いたしました。感染拡大地域からの患者さんへの面会はオンライン面会となり、リクルートにおいてもオンライン面接となり、画面を通して相手の表情や思いを読み取らなくてはなりません。そのような環境の中でも、職員一同、患者さんへの思いやりを大切にしながら日々奮闘しております。

国の施策が次々と展開され、医療体制も大きく変わろうとしています。当院においても、病棟の再編成や異動は、各職員にとって自身の足元が揺らぐような体験だったと思います。看護実践の場では、

組織の一体感を高め、職員が組織から守られているという感覚が持てるように就労環境改善を喫緊の課題とし、看護部の理念である、『地域の皆様の信頼に応え、思いやりのある質の高い看護の提供』が実践できるよう環境を整えていきたいと思えます。

今後もリスクとの共存が必要です。「コロナ禍」という危機が与えてくれたピンチをチャンスと捉え、地域における自院の役割を果たしながら、医療・看護の価値を高めることに貢献できるよう全力で取り組んでまいります。



「看護職の倫理綱領」の改訂について ～倫理的視点を看護の現場に～

看護部倫理勉強会 豊田 みゆき



日本看護協会は倫理綱領を「看護職の倫理綱領」として2021年3月に改訂しました。保険・医療・福祉の場面で活躍する看護職の行動指針となるような身近な表現とし、看護職が人々の尊厳を守り尊重することを強調した内容になっています。そして自然災害の頻発から本文16条、自然災害における行動指針が追加されています。

近年、医療の現場では高齢化が進み認知症を抱える患者も増加傾向にあります。患者と向き合う中でACP(アドバンス・ケア・プランニング)・意思決定支援・身体抑制など、尊厳を守りその人らしさを追

求した看護を心がけていますが倫理的ジレンマと戦う毎日です。また、いつ起こるか分からない自然災害への看護職としての行動と役割を自覚して過ごす必要があると考えています。

患者の最も身近にいる私達は、倫理的視点をもとに人権を尊重しつつ患者にとっての最善は何かを常に念頭に置いて接し、これからも看護職としての誇りと自覚を持って看護を実践していきたいと思えます。

